

DATA

[所在地]  
和歌山市

[家族構成]  
夫婦+子ども3人

[敷地面積]  
263.71㎡ (79.77坪)

[延床面積]  
215.00㎡ (65.03坪)

1階 133.73㎡ (40.45坪)  
2階 81.27㎡ (24.58坪)

[工法]  
木造軸組工法

[竣工]  
2019年3月

建築家

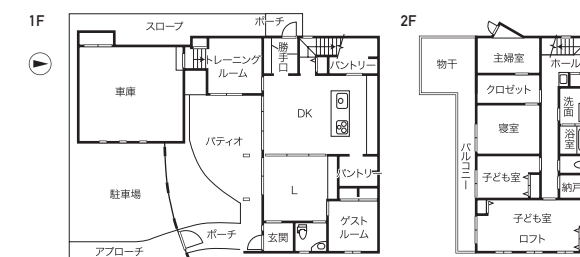
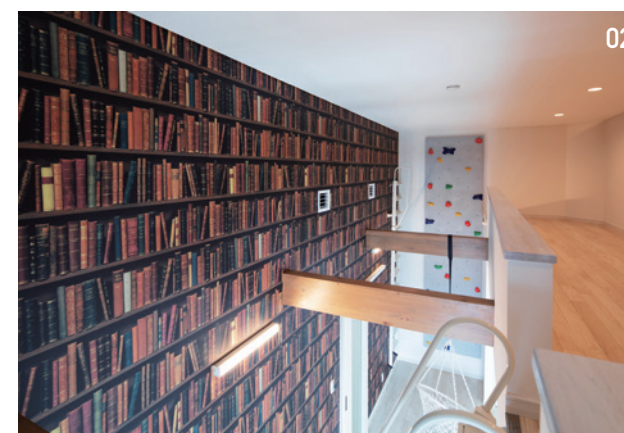


橋 雅彦  
INDEX P.39 No.10

TEXT 中島 久美  
PHOTO 長岡 浩司



海色の外壁、パティオのこて絵で  
海辺の気分を楽しむ



01\_淡いブルーの外壁に包まれた建物。大きなガレージは車2台を収容できるほか、ご主人の趣味の自転車メンテナンスなどに利用している。

02\_子ども室とロフト。本をプリントした壁紙、ホルダリングの壁、プランコをかけた梁など楽しさがあふれる。

03\_建物まではバリアフリーのスロープが続く。長いアプローチが奥行きを感じさせ、家に帰ってきたという気持ちを引き立てる。

04\_広々としたLDK。アイランド式対面キッチンの両サイドには、それぞれ大きなパントリーを設け、家事室として利用している

05\_リビングから見た夜のパティオ。こて絵を施したバーゴラとガレージの壁が、外からの視線を遮りながら海辺のリゾートを感じさせる。

海が好きな家族のために、街中の住宅街でも海辺の気分が味わえるよう工夫を凝らした住まい。隣接する周囲からの視線を避けてプライバシーを守りながら、視界に空をとり入れたくつろぎのパティオのある家を提案した。

パティオがあるのは建物の南側。1階のLDKに面している。バーゴラとガレージが道路からの視線を遮り、視界に入るのはパティオと空だけ。LDKから見えるパティオの壁には、海辺のリゾートを感じさせるような、空や海をイメージした左官仕上げのこて絵を施した。敷地は道路より約70cm高く、パティオのテラスは道路から1m近い高さになるため、海に浮かぶ船のデッキテラスに立つような気分が味わえる。このパティオとLDK、その隣のトレーニングルームが二つになって、家族のくつろぎの空間を生んでいる。

一方、2階はプライベートな空間。居室のほか浴室も2階に設置した。寝室と主婦室は、共有するウォークインクローゼットを前室として出入口をひとつにし、落ち着いた空間にしている。また屋根を東に向けて高くし、吹き抜けやロフトも設けた。子ども室からロフトへとホルダリングしながら登れるような壁を設けたり、浴室の天窓から星が見えるようにしたり、遊び心も添えている。

